

2021(令和3)年8月 実施

第50回 足立区政に関する世論調査 《概要版》

足立区では、昭和47年から区民の方を対象とした世論調査を実施しており、今回は第50回となります。世論調査の実施にあたっては、多くの区民の皆様にご協力いただき心からお礼を申し上げます。調査結果は、区政運営のための基礎資料として今後の施策に活用してまいります。なお、「第50回足立区政に関する世論調査」の全容をお知りになりたい方は、区のホームページ、区内の各図書館及び区役所区政資料室でご覧いただけます。

今回の調査では、区政全体に対する【満足層】（「満足」＋「やや満足」）は6割台半ばで現行と同じ聴取方法となった平成25年以降で最も高い割合となりました。

区の取り組みについては、重要度が平均値より高いが現状評価（満足度）が低い分野として、「交通対策」「防災対策」「学校教育対策」「高齢者支援」「治安対策」があげられています。

また、継続的に聴取している「居住地域の治安状況」が【良い】と感じている人は6割強で、本設問を開始した平成23年以降は漸増を続け、この10年間で20ポイント以上の増加となっています。

- ☐ 定住性
- ☐ 大震災などの災害への備え
- ☐ 洪水対策
- ☐ 区の情報発信のあり方
- ☐ 健康
- ☐ スポーツ・読書
- ☐ ビューティフル・ウィンドウズ運動
- ☐ 環境・地域活動
- ☐ 「孤立ゼロプロジェクト」など
- ☐ 協働・協創
- ☐ 区の取り組み

調査の概要

- ◇対象者……18歳以上の区民
- ◇対象者の抽出……単純無作為抽出法
- ◇対象者数……3,000人
- ◇調査方法……郵送配布郵送回収法
- ◇回収数(率)……1,709人(57.0%)
- ◇調査時期……2021(令和3)年8月



2022(令和4)年3月

足立区

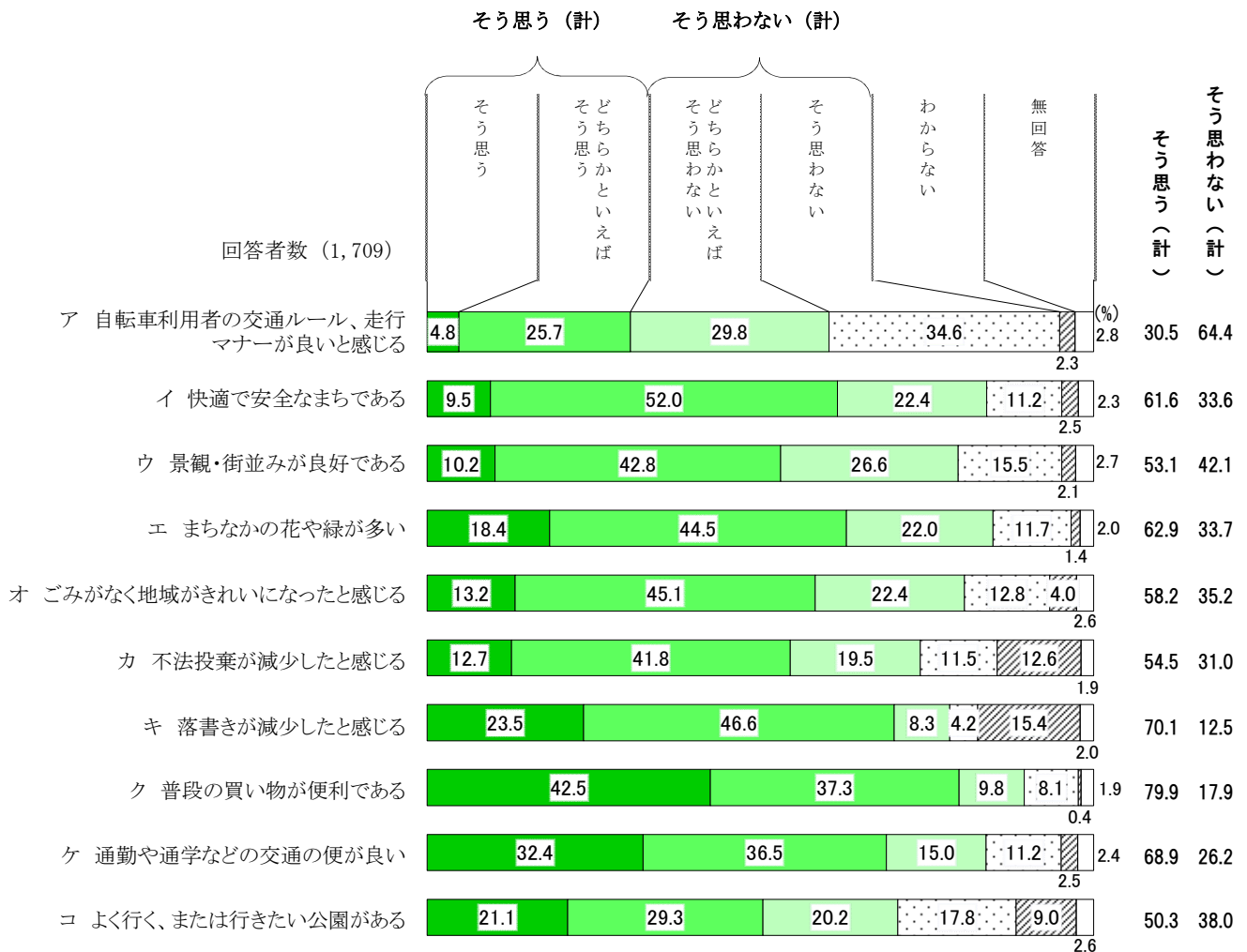
定 住 性

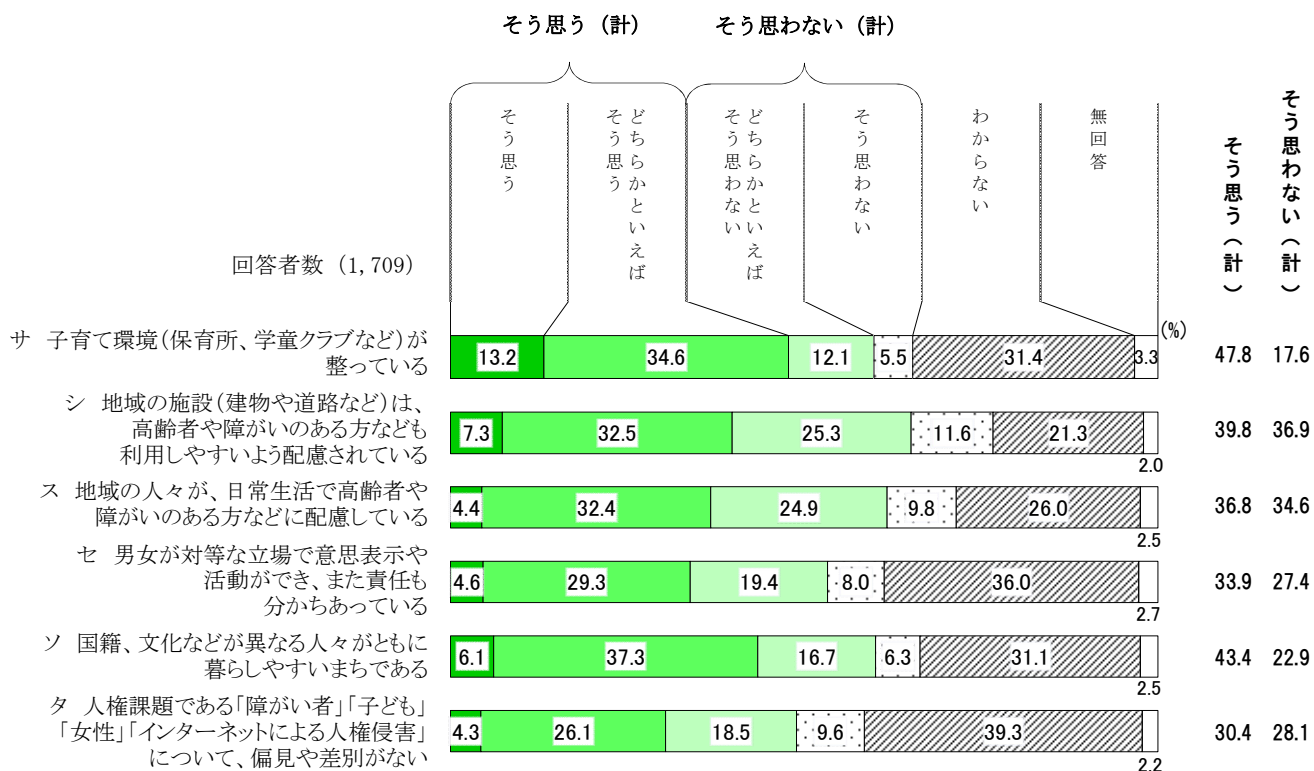
住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、“普段の買い物が便利である”が79.9%で最も高く、以下“落書きが減少したと感じる”70.1%、“通勤や通学などの交通の便がよい”68.9%の順となっています。



住まいの地域についての感じ方

【普段の買い物が便利である】と感じている人は、約8割となっています。





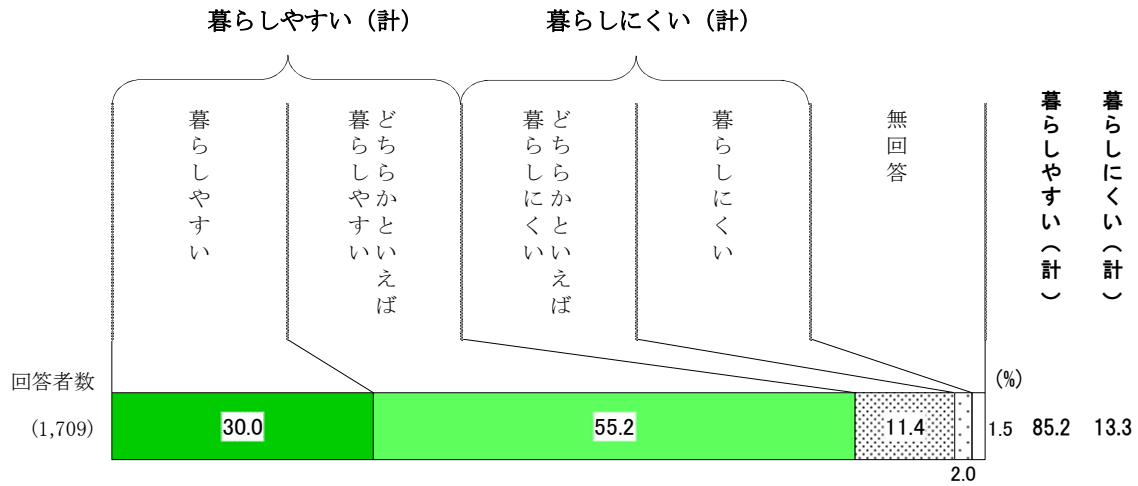
参考１： 百分比（％）と百分比（％）を合わせる場合、本来の実数値を合わせて算出した百分比を記しているため、その百分比は紙面上の百分比の合計と合わない場合があります。

２： 表題に（複数回答）と表記されている場合は、回答数に制限がないことを意味しています



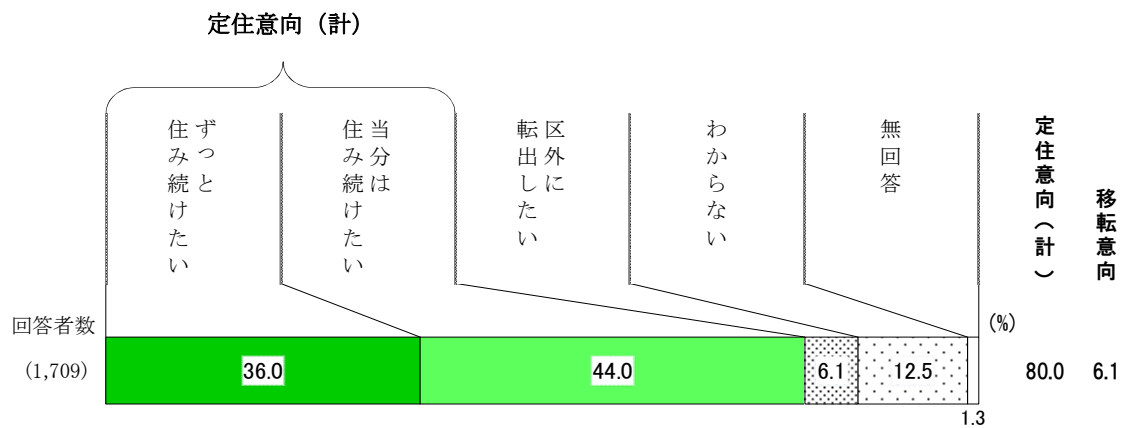
地域の暮らしやすさ

【暮らしやすい】はここ7年増加傾向を続け、8割台半ばとなっています。



定住意向

【定住意向】をもっている人は、8割となっています。



大震災などの災害への備え

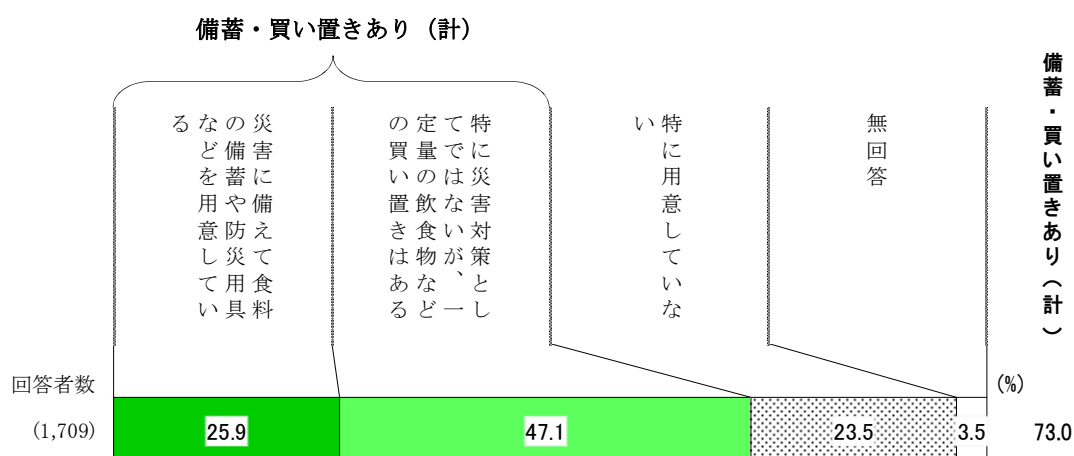
災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が25.9%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.1%で、両者を合わせた【備蓄・買い置きあり】は73.0%となっています。一方、「特に用意していない」は23.5%となっています。

【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が92.2%で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（90.3%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（80.0%）の順となっています。



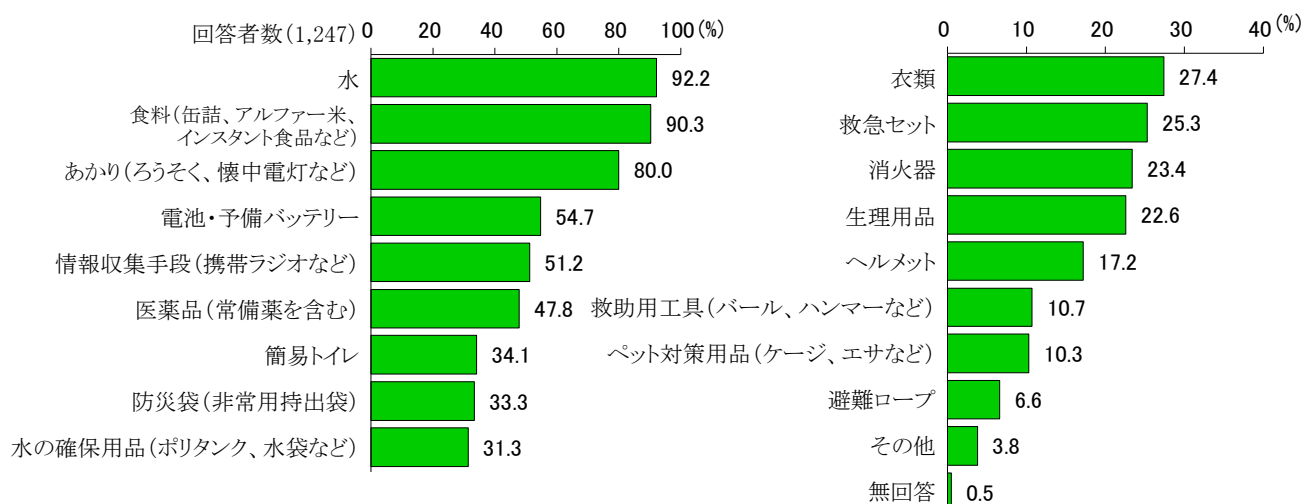
備蓄や防災用具などの用意

【備蓄・買い置きあり】の割合は前回から変わらないものの、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回に比べ4ポイント増加しています。



備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（複数回答） ※【備蓄・買い置きあり】の人の回答

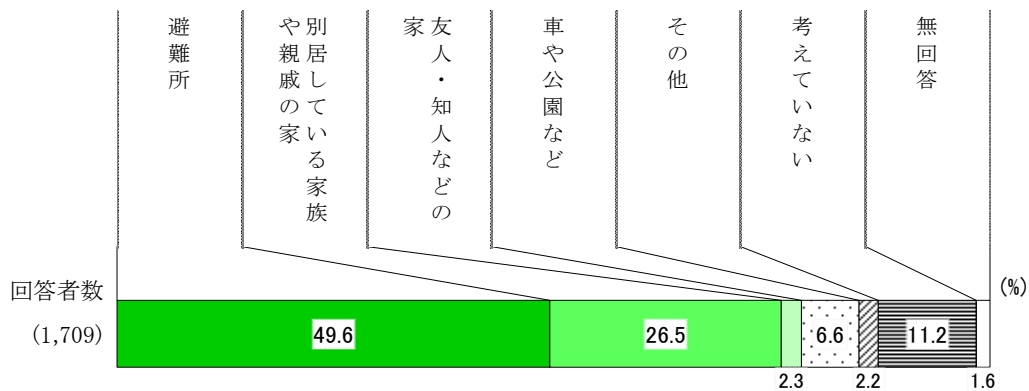
「水」が9割強、「食料」が9割、「あかり」が8割で上位となっています。





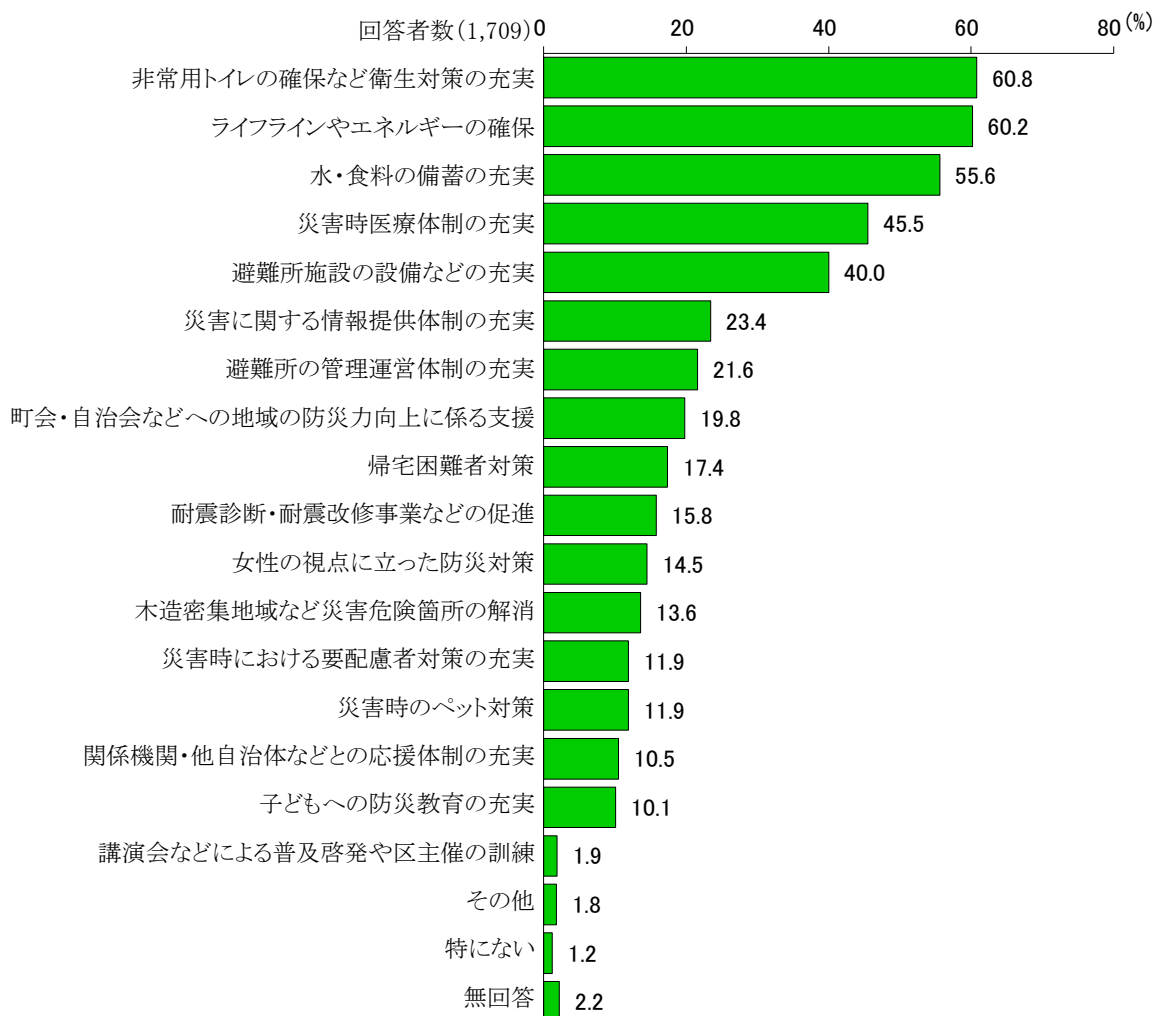
大規模災害時の避難生活場所

「避難所」という人が前回から4ポイント増加し約5割となっています。



大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと（〇は5つまで）

“衛生対策の充実”と“ライフラインやエネルギーの確保”が6割、“水・食糧の備蓄の充実”が5割台半ばで、例年同様に上位となっています。



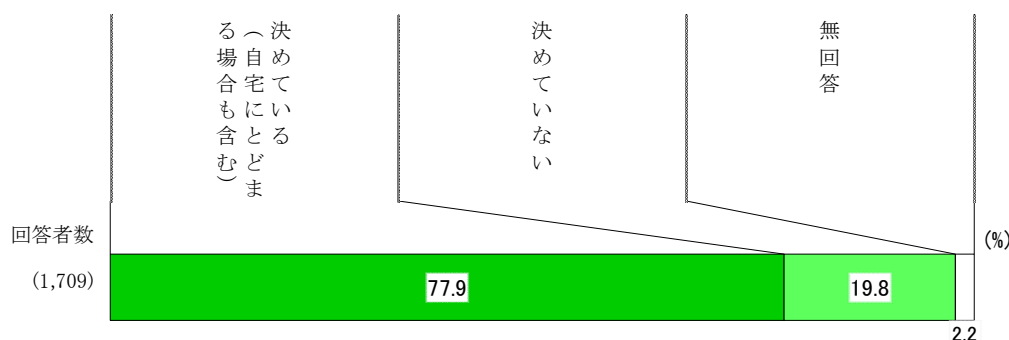
洪水対策

河川はん濫による浸水被害の際の対処として、「避難する」は、「区から避難指示が発令されたとき」が68.6%で最も高く、以下「自宅付近が浸水したとき」が64.5%、「近所の人が避難しているのを見たとき」が42.1%となっています。



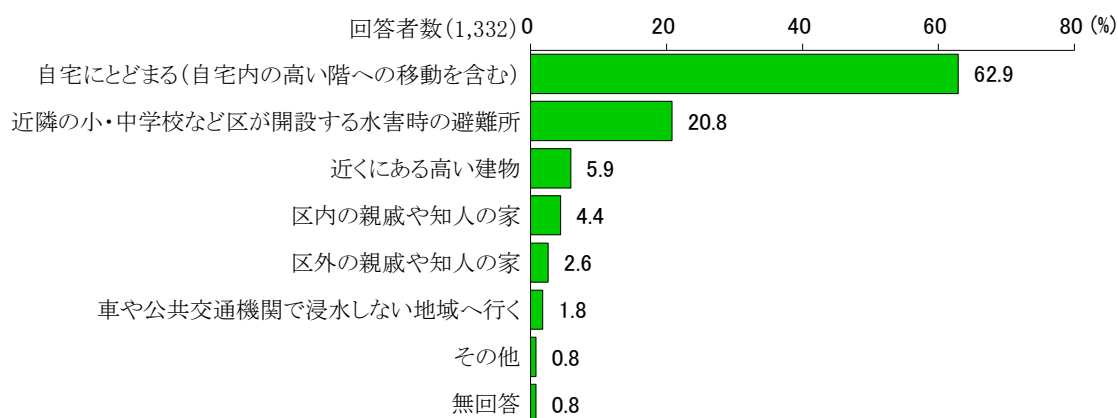
河川はん濫時における避難場所の事前決定有無とその避難場所・決めていない理由

避難場所を事前に「決めている」人は約8割。決めている人の6割強が“自宅にとどまる”と回答し、全体で約2割の決めていない人の理由では“避難する場所がわからないから”が4割台半ばで最も高くなっています。



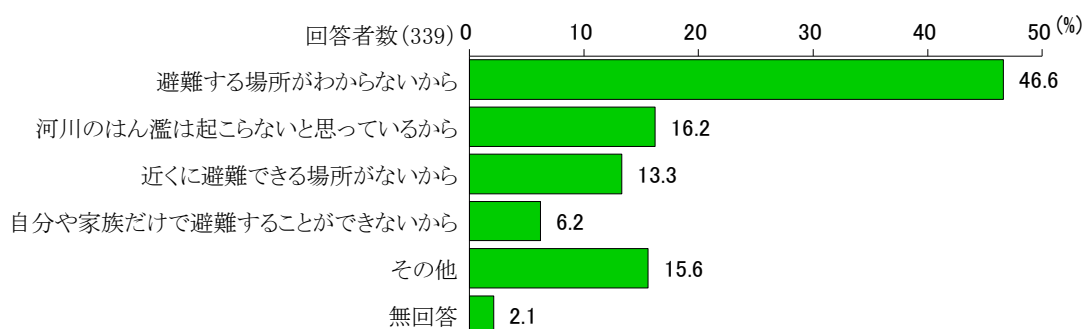
〈事前に決めている避難場所〉

※【事前に決めている】人の回答



〈事前に避難場所を決めていない理由〉

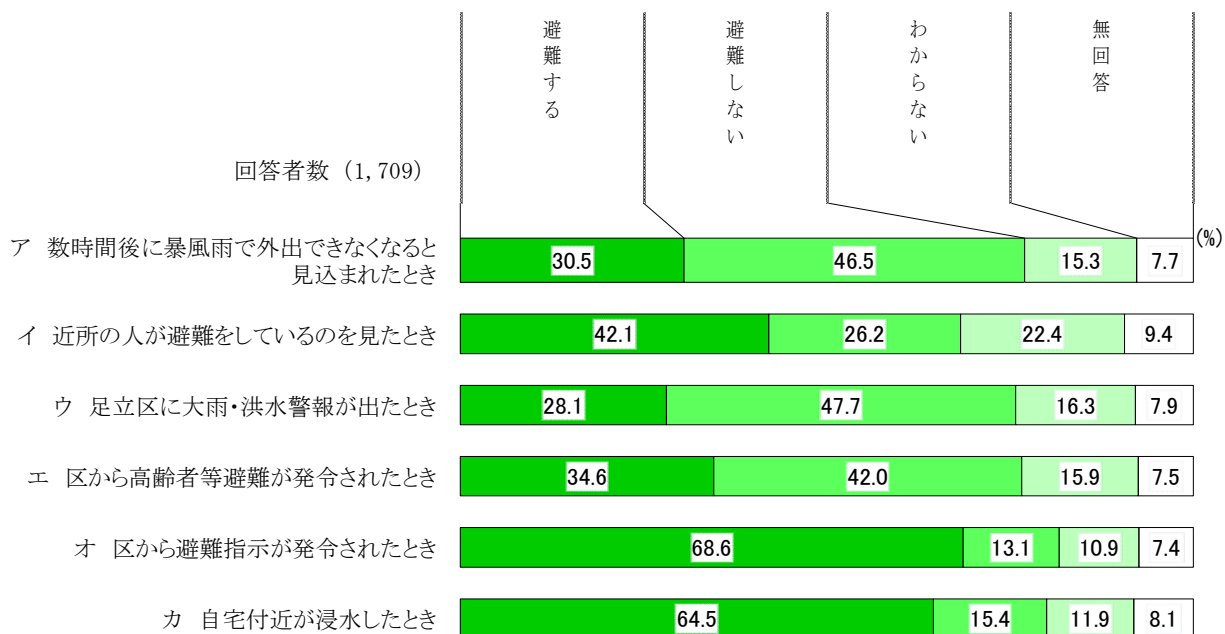
※【事前に決めていない】人の回答





河川はん濫による浸水被害の際の対処

避難をするという人の割合は“区から避難指示が発令されたとき”が7割弱、“自宅付近が浸水したとき”が6割台半ばと高くなっています。



区の情報発信のあり方

重要とする区の情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が63.8%で最も高く、僅差で「災害や気象に関する情報」(63.1%)が続いています。

必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が5.9%で、これに「ある程度得られている」(70.2%)を合わせた【得られている】は76.1%となっています。



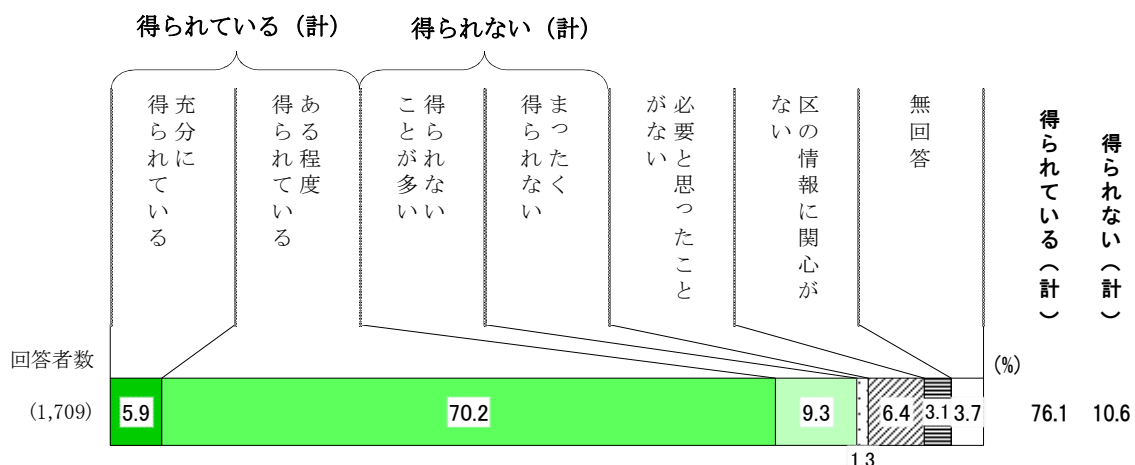
重要とする区の情報（複数回答）

“健康や福祉”と“災害や気象”が6割台半ば近くで上位となっています。



必要な時に必要とする区情報の入手状況

必要な時に【得られている】が、7割台半ばとなっています。



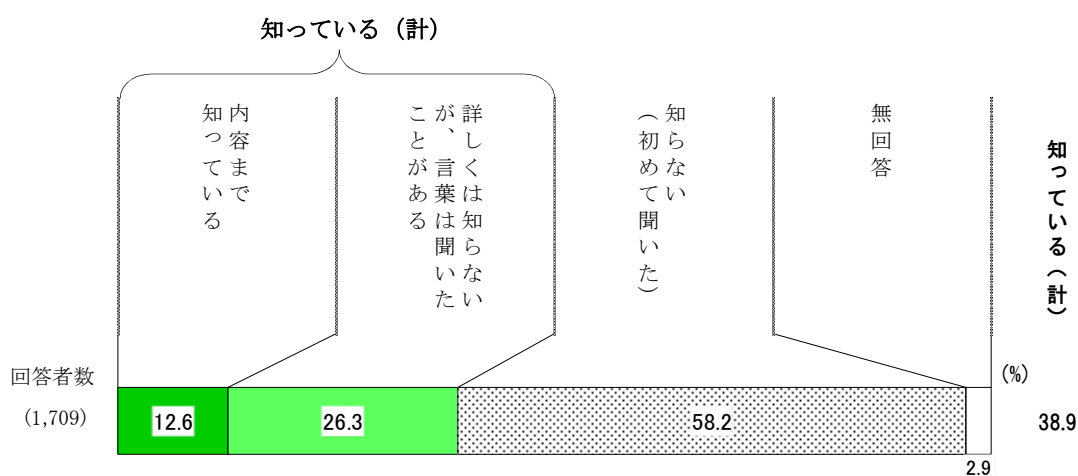
健康

『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』という区のキャッチフレーズを「内容まで知っている」は12.6%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(26.3%)を合わせた【知っている】は38.9%となっています。



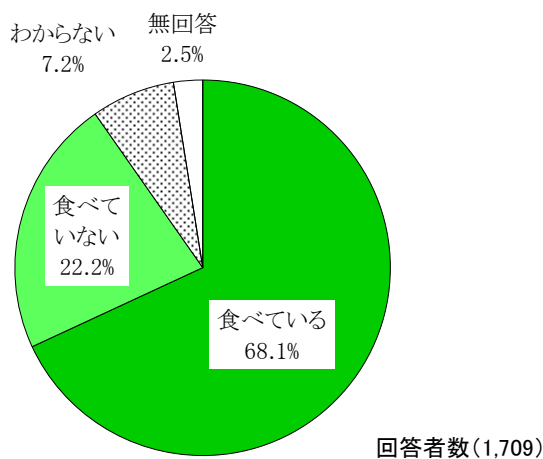
区のキャッチフレーズの認知状況

区のキャッチフレーズを認知されている方は4割弱で、前年から横ばいで推移しています。



野菜から食べ始めることの実践状況

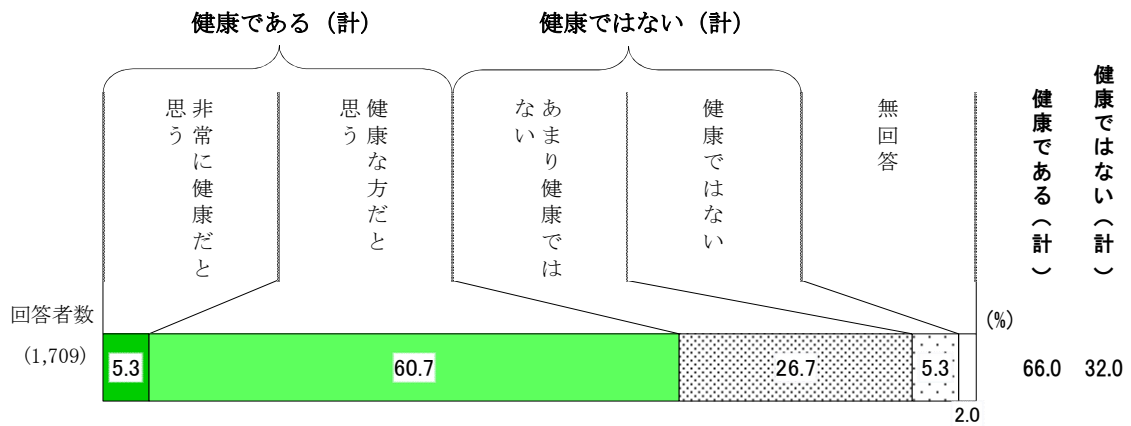
野菜から「食べている」人は前回から3ポイント増加し、7割弱となっています。





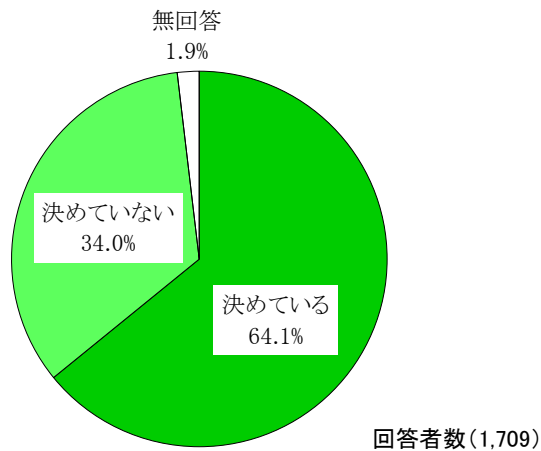
自分の健康自認度

自分は「健康である」と思っている人は前回から3ポイント減少し6割台半ばとなっています。



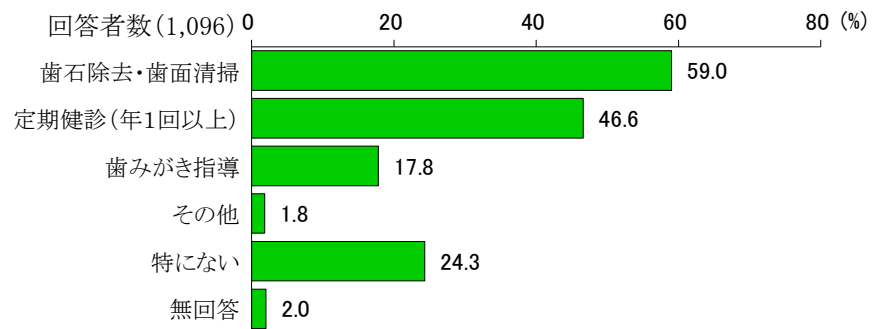
決めている歯科医院

歯科医院を「決めている」人は6割台半ばで、治療のほかに受けている内容は「歯石除去・歯面清掃」が約6割で最も高く、「定期健診（年1回以上）」が4割台半ばとなっています。



歯科医院で治療のほかに受けている内容（複数回答）

※【決めている】人の回答



スポーツ・読書について

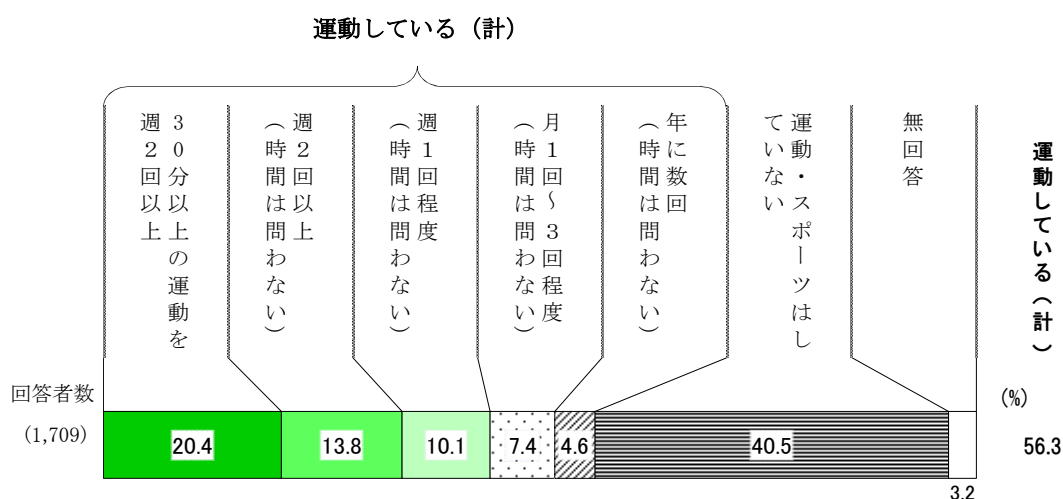
「運動している（計）」という人は前回から2.8ポイント減少し56.3%となっています。

行っている運動・スポーツとしては、「ウォーキング」が51.0%で最も高く、以下「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」（24.9%）、「筋力トレーニング」（21.3%）と続いています。



日常的な運動・スポーツの実施状況

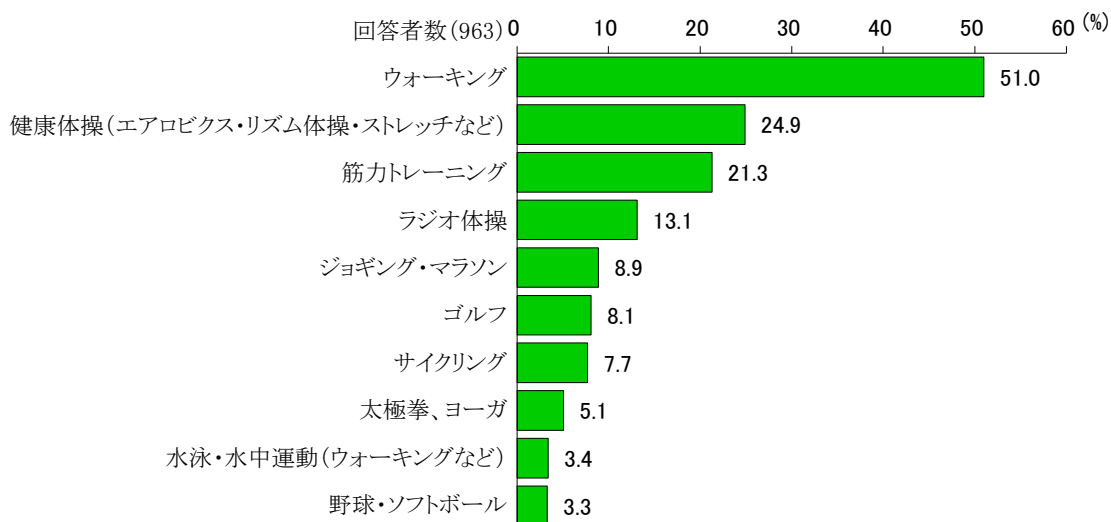
「運動・スポーツはしていない」という人は4割となっています。



継続的に実施している運動・スポーツ（複数回答／上位10項目）

※【運動・スポーツをしている】人の回答

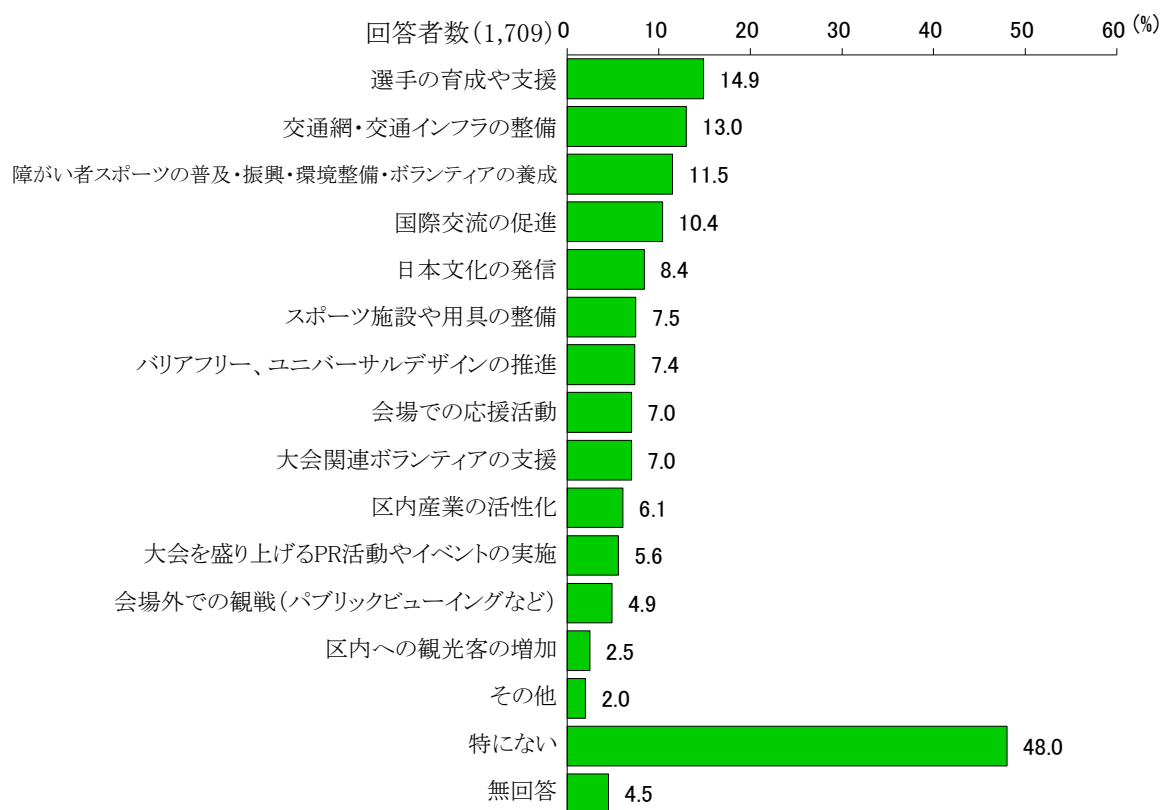
「ウォーキング」が5割強で、突出して高くなっています。





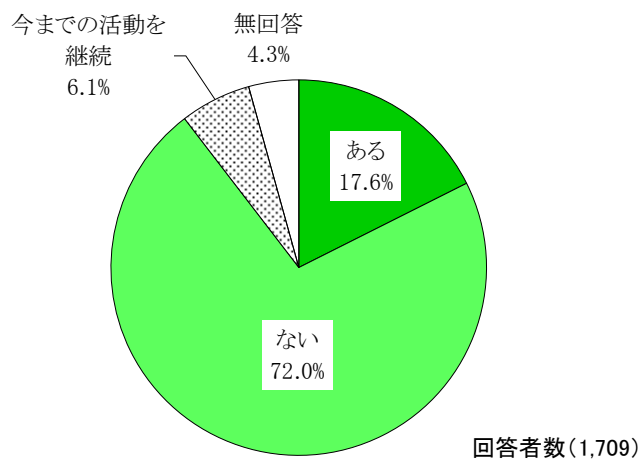
東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること (〇は3つまで)

「選手の育成や支援」「交通網・交通インフラの整備」「障がい者スポーツの普及・振興・環境整備・ボランティアの養成」「国際交流の促進」が1割台あるものの、「特にない」が5割弱となっています。



新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無

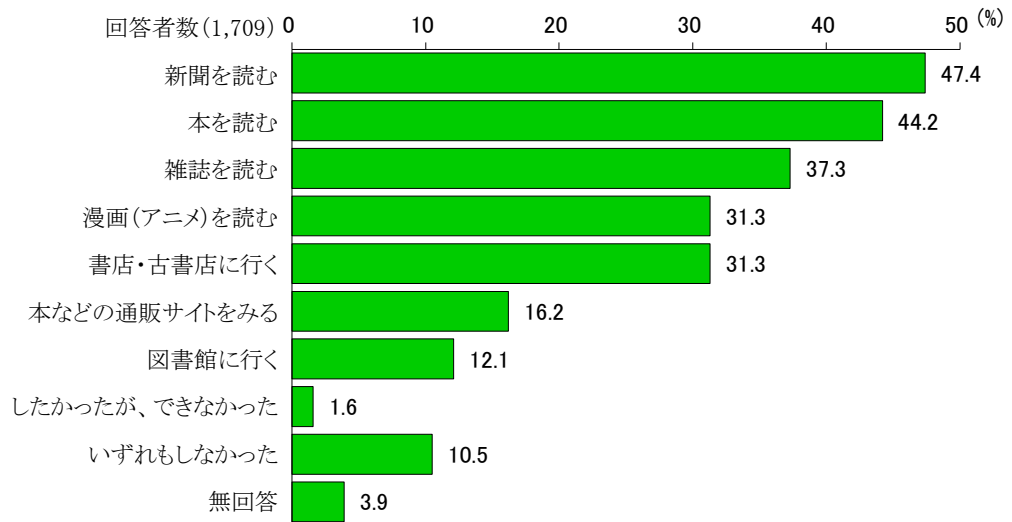
新たに始めたい活動が「ある」人は1割台半ばを超えているものの、「ない」人が7割強となっています。





読書に関わる行動状況（複数回答）

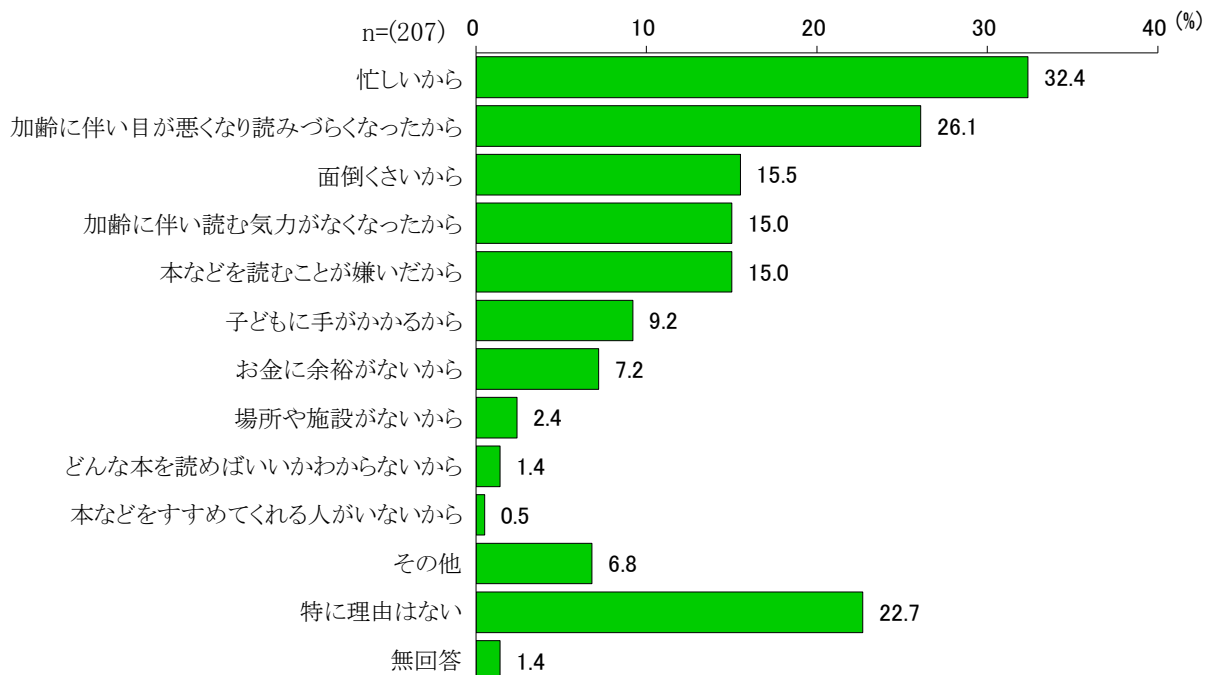
「新聞を読む」が4割台半ばを超えて最も高く、「したかったが、できなかった」と「いずれもしなかった」を合わせた【読書に関わる行動なし】は1割強となっています。



読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由（複数回答）

※読書に関わる行動がなかった人の回答

「忙しいから」が3割強、次いで「加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから」が2割台半ばとなっています。



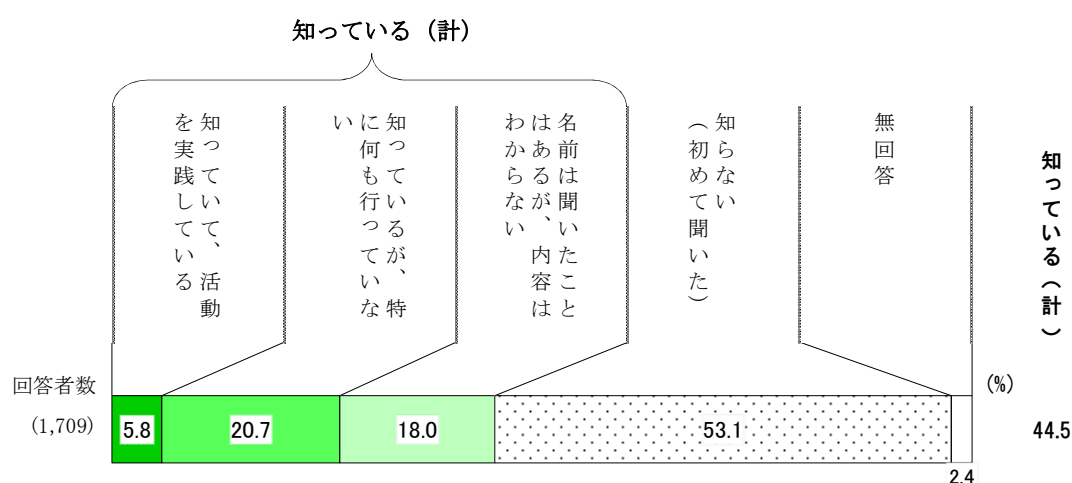
ビューティフル・ウィンドウズ運動

『ビューティフル・ウィンドウズ運動』について、「知っていて、活動を実践している」は5.8%で、これに「知っているが、特に何も行っていない」(20.7%)、「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(18.0%)を合わせた【知っている】は44.5%となっています。



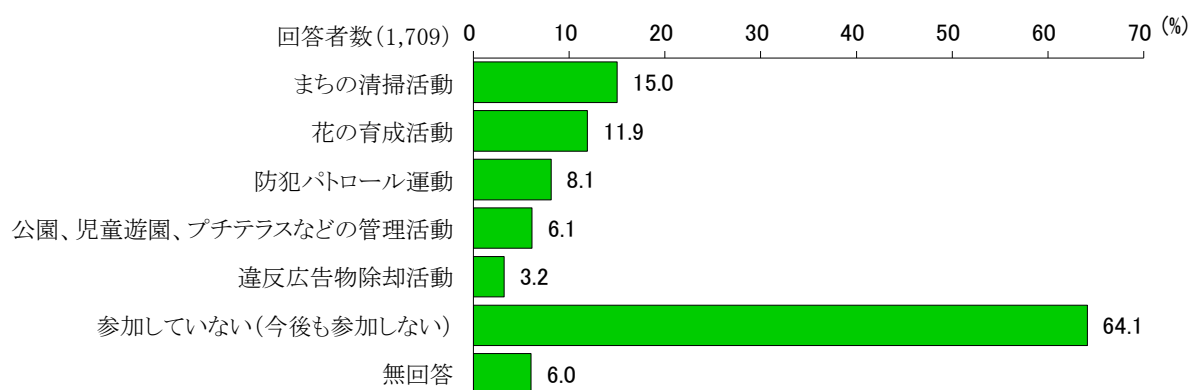
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

【知っている】は4割台半ばとなっています。



参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み (複数回答)

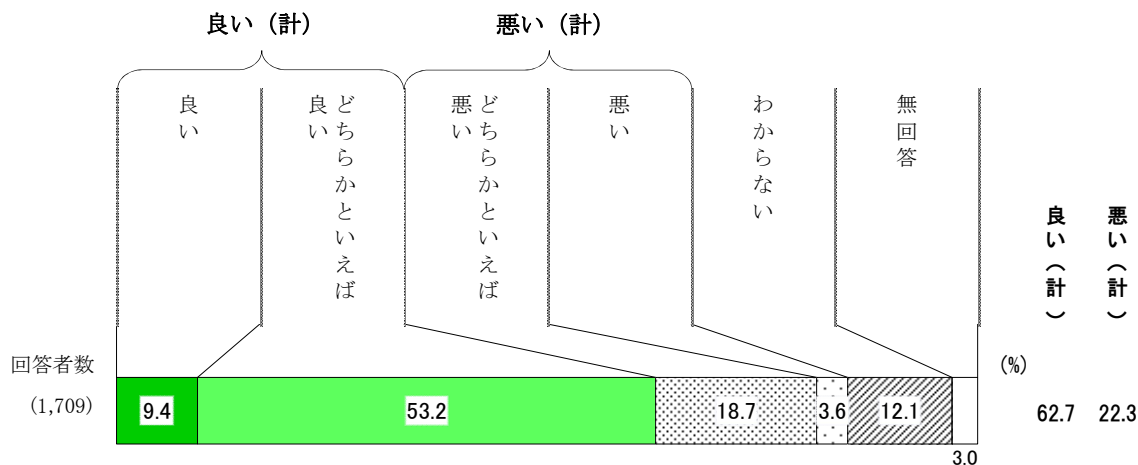
「まちの清掃活動」と「花の育成活動」が1割台であるものの、「参加していない(今後も参加しない)」が6割台半ばとなっています。





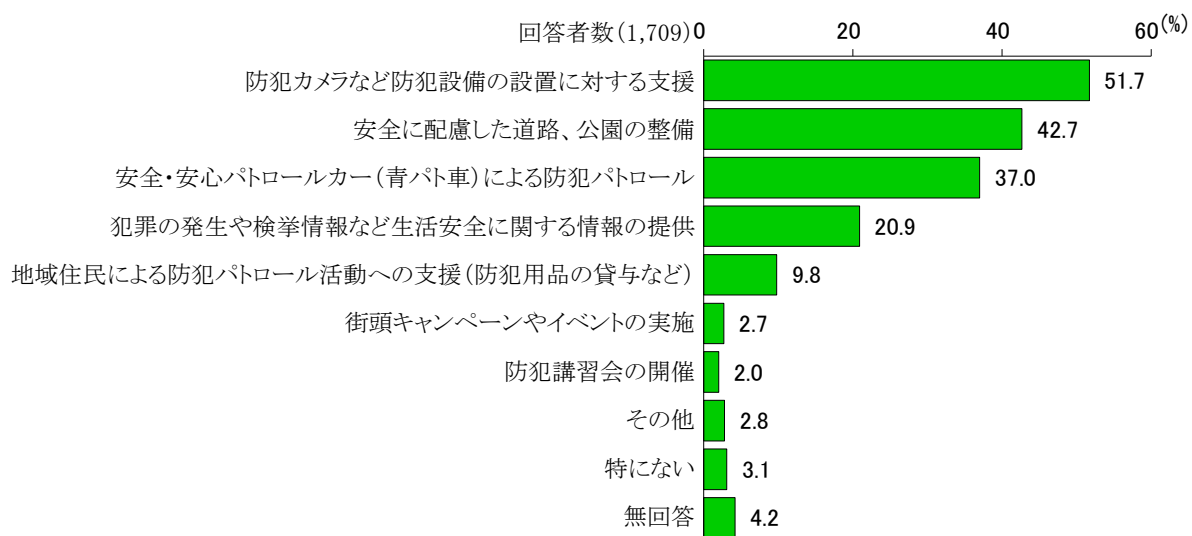
居住地域の治安状況

【良い】と感じている人が6割強で、【悪い】と感じている人は2割強となっています。



治安対策として区に力を入れてほしいこと (〇は2つまで)

“防犯設備の設置に対する支援”が5割強で最も高く、次いで、“安全に配慮した道路、公園の整備”が4割強となっています。



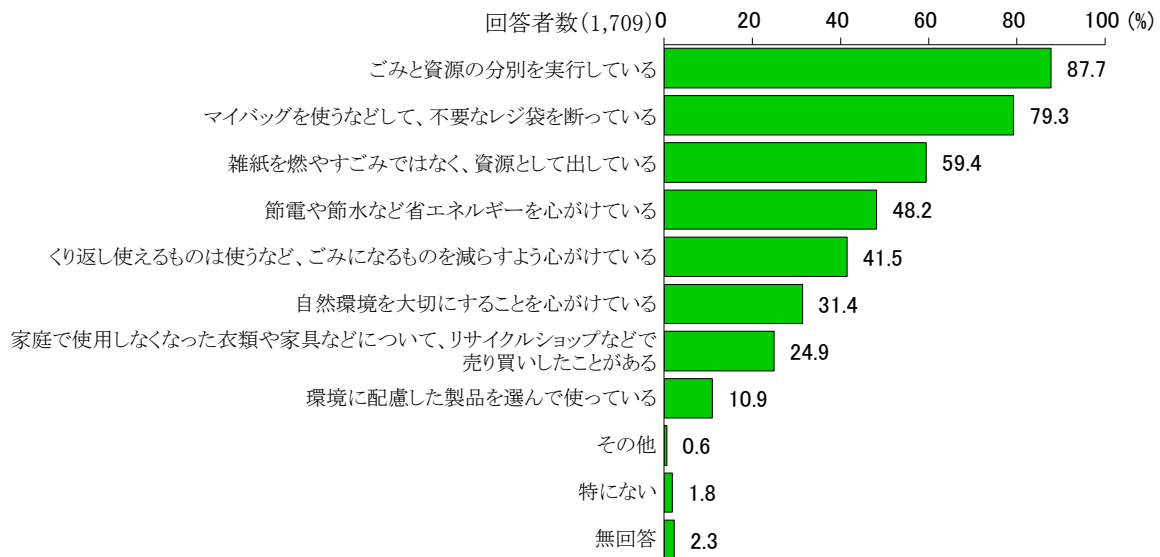
環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が87.7%で最も高く、以下「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(79.3%)、「雑誌を燃やすごみではなく、資源として出している」(59.4%)の順となっています。



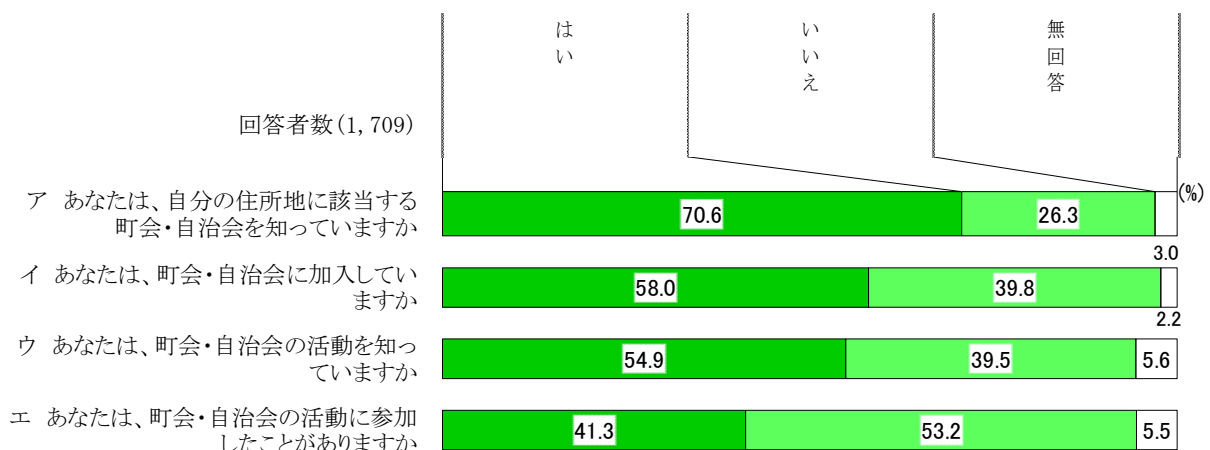
環境のために心がけていること（複数回答）

“ごみと資源の分別を実行している”が8割台半ばを超えて最も高く、“レジ袋を断る”が約8割、“雑誌を資源として出している”が約6割となっています。



町会・自治会の加入や活動

町会・自治会については、「ア 知っている」が7割、「イ 加入している」が6割弱、「ウ 活動を知っている」が5割台半ばとなっていますが、「エ 参加したことがある」は4割強と半数に至っていません。



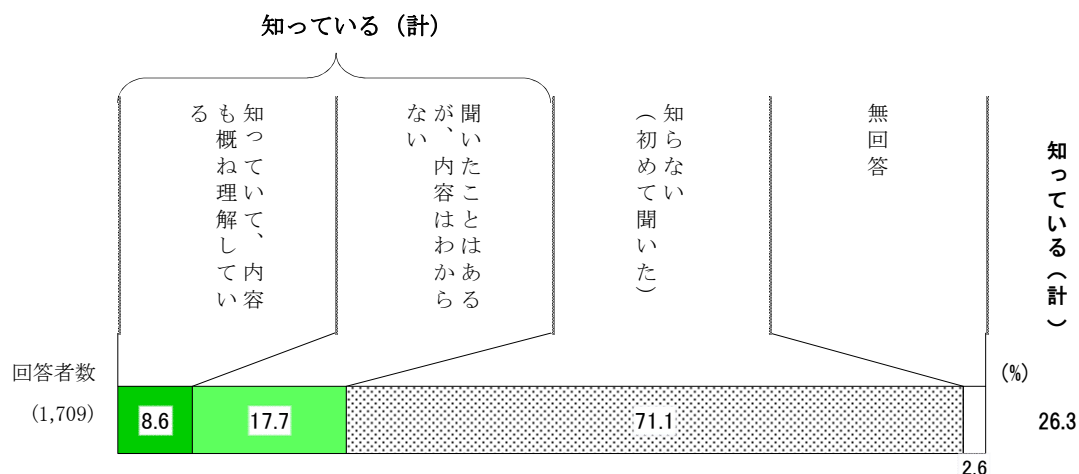
「孤立ゼロプロジェクト」など

《孤立ゼロプロジェクト》について、「知っていて、内容も概ね理解している」が8.6%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(17.7%)を合わせた【知っている】は26.3%となっています。一方、「知らない(初めて聞いた)」は71.1%を占めています。



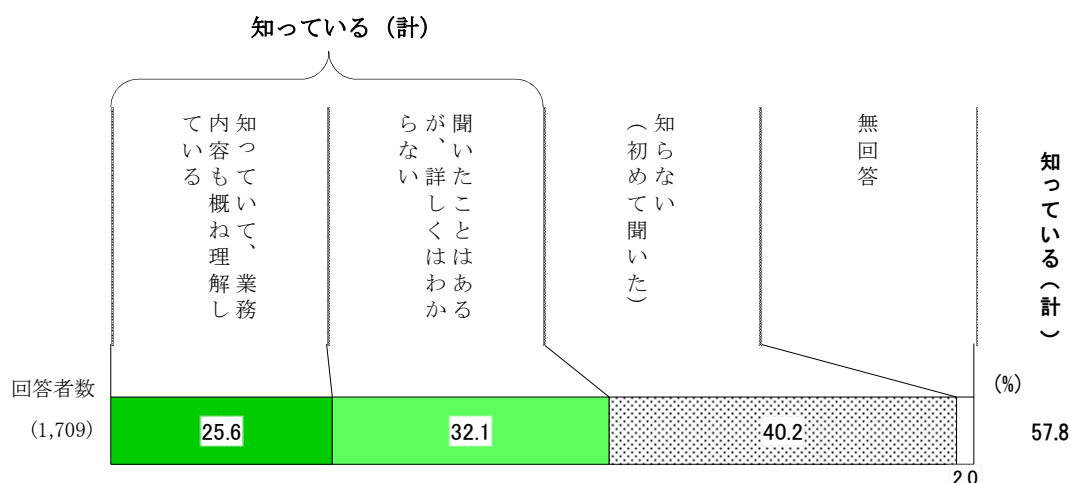
「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

【知っている】が2割台半ば、「知らない(初めて聞いた)」は7割強となっています。



「地域包括支援センター」の認知状況

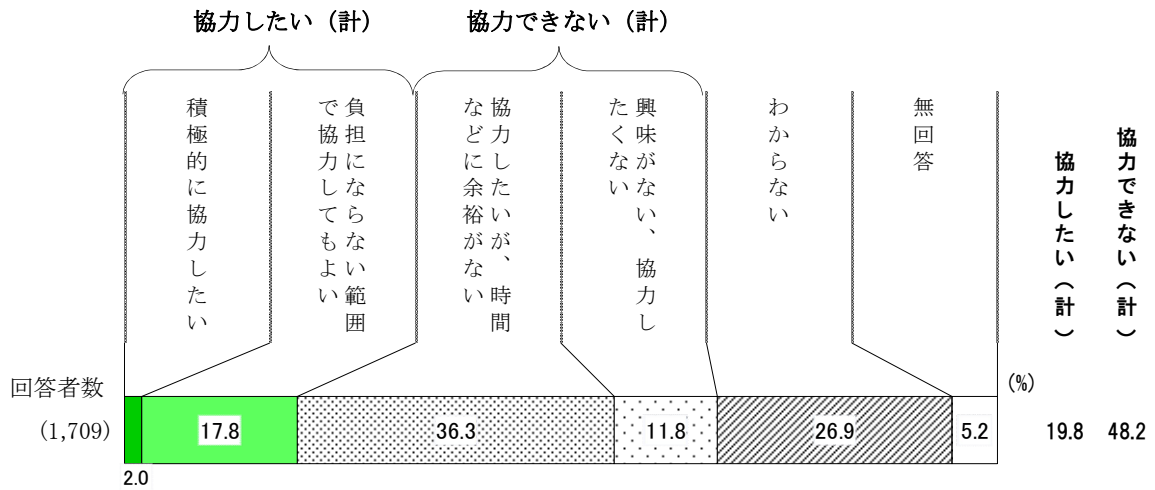
【知っている】が5割台半ばで、「知らない(初めて聞いた)」が4割となっています。





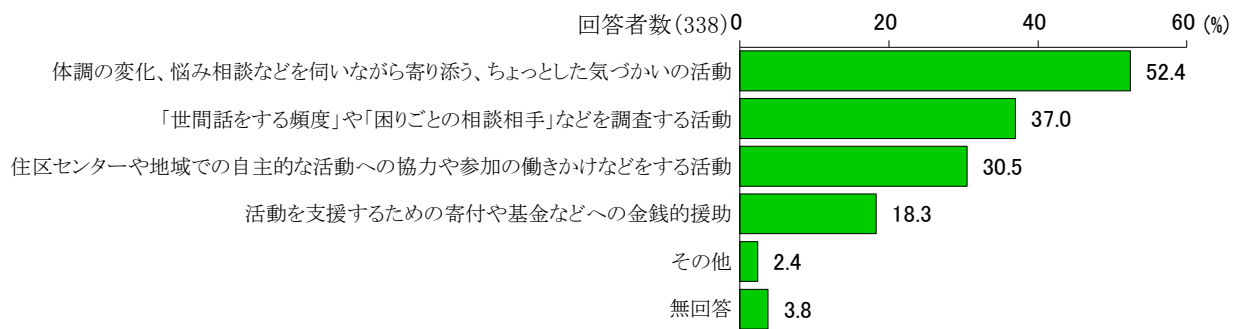
高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

【協力したい】の約2割に対して、【協力できない】は5割弱となっています。



協力意向がある活動内容（複数回答）

“ちょっとした気づかいの活動”が5割強で最も高くなっています。



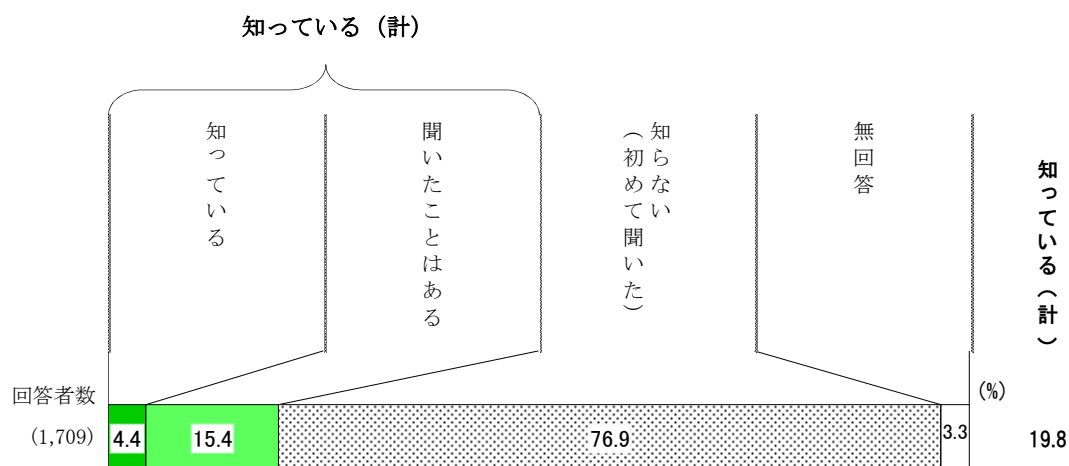
協働・協創

《協創》について「知っている」が4.4%で、これに「聞いたことはある」(15.4%)を合わせた【知っている】は19.8%となっています。一方、「知らない」は76.9%を占めています。



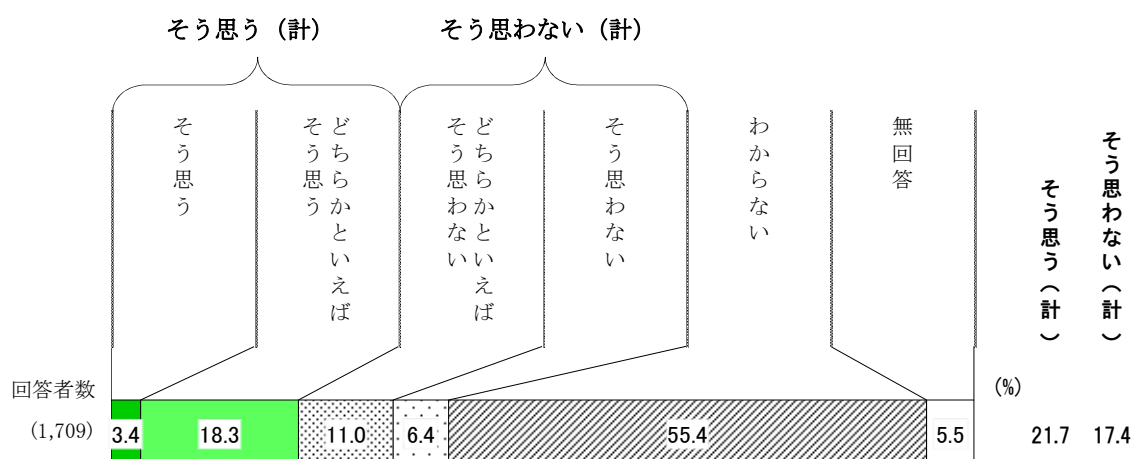
「協創」の認知

【知っている】は約2割となっています。



区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

【そう思う】が2割強で、【そう思わない】を4ポイント上回っていますが、「わからない」が5割台半ばを占めています。



区 の 取 り 組 み

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「治安対策」「防災対策」「交通対策」などは、現状評価が低く、重要度が高くなっています。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

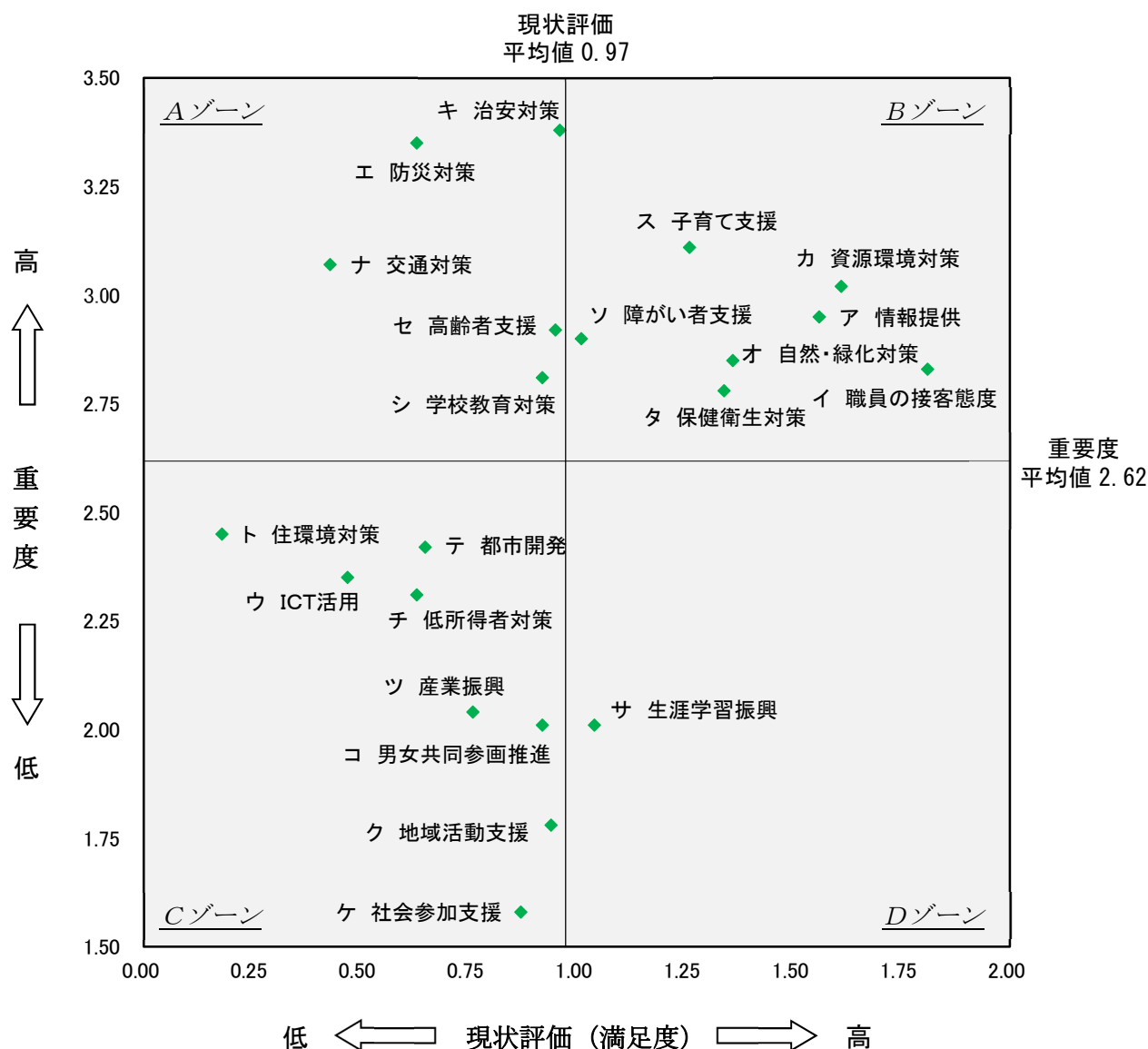
「子育て支援」「資源環境対策」「情報提供」などは、現状評価、重要度の両面で高くなっています。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住環境対策」「ICT活用」などは、現状評価、重要度の両面で低くなっています。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

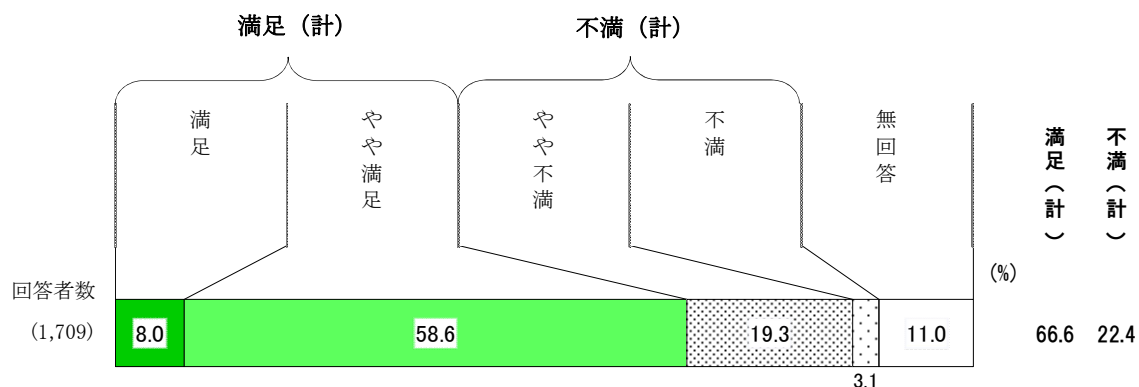
「生涯学習振興」があげられています。





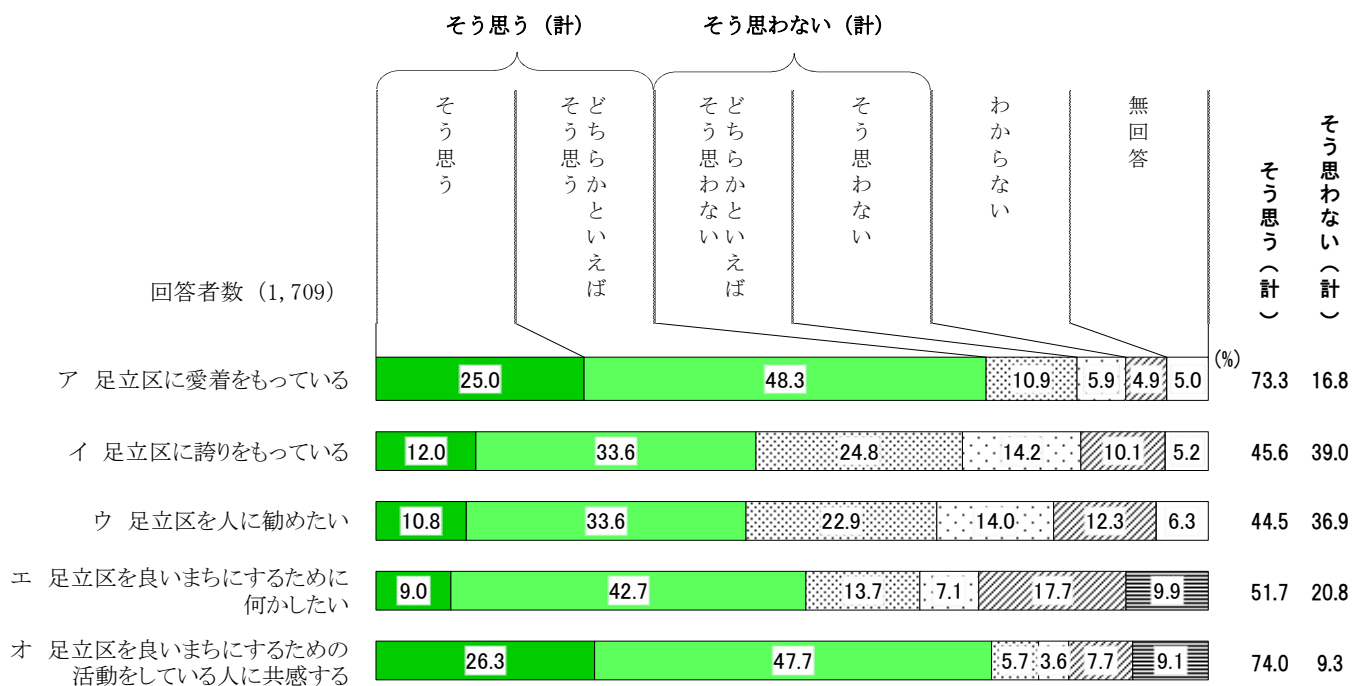
区政に対する満足度

【満足】は6割台半ばを占め、【不満】の2割強を大きく上回っています。



区に対する気持ち

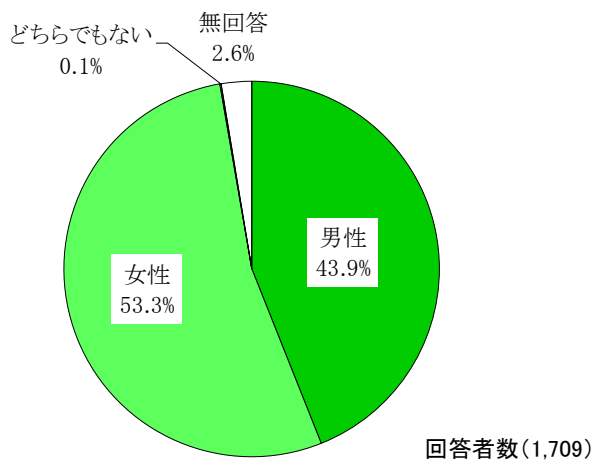
区に対する気持ちについて【そう思う】は、“足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する”と“足立区に愛着をもっている”が7割台半ばで高く、“足立区を良いまちにするために何かしたい”が5割強、“足立区に誇りをもっている”と“足立区を人に勧めたい”は4割台半ばとなっています。



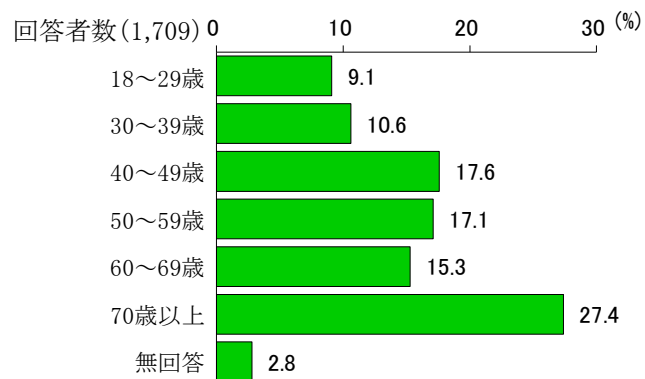
標 本 構 成



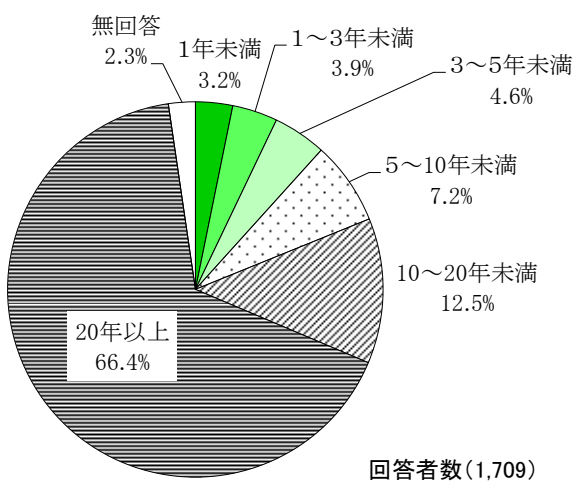
性 別



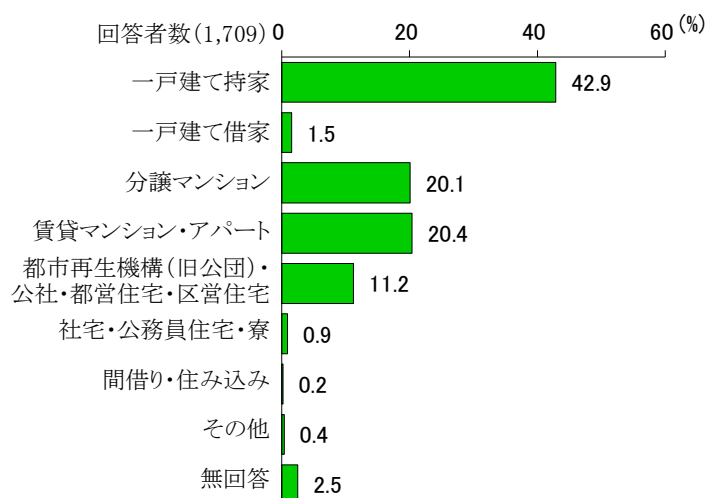
年 齢



居住年数

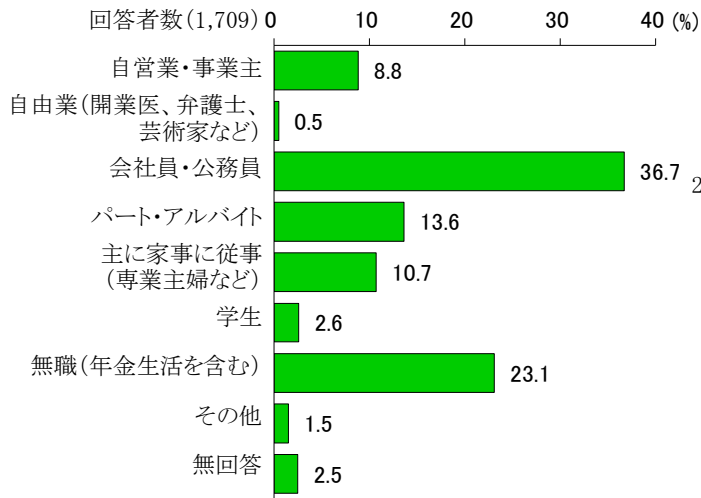


住居形態

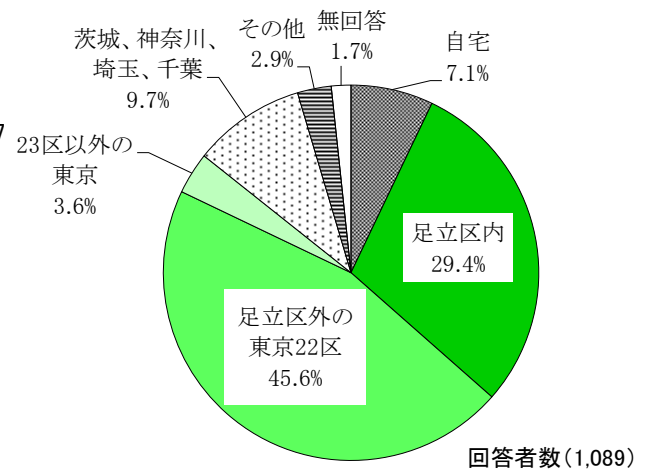




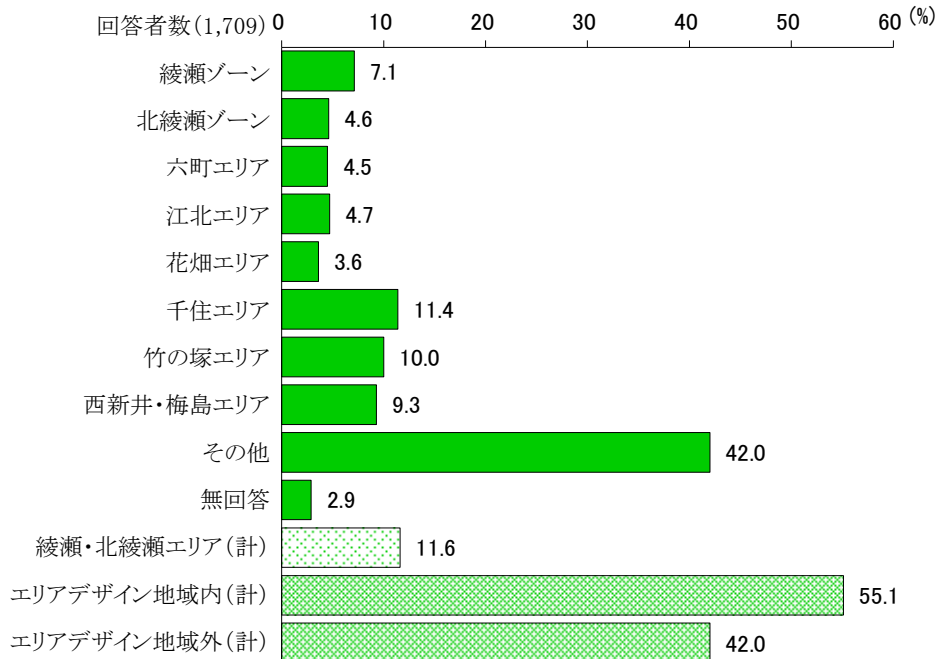
職 業



就労(就学)場所

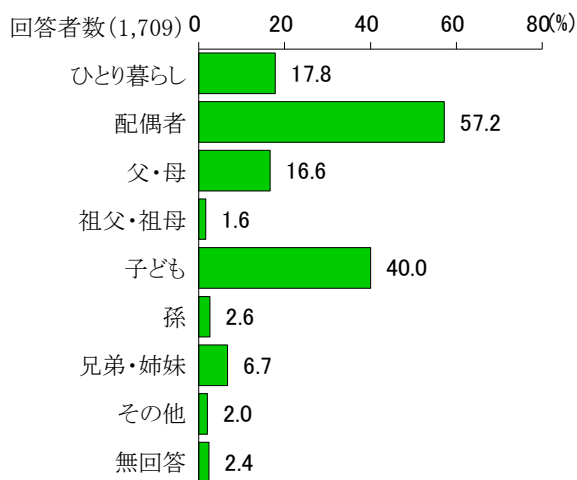


エリアデザイン

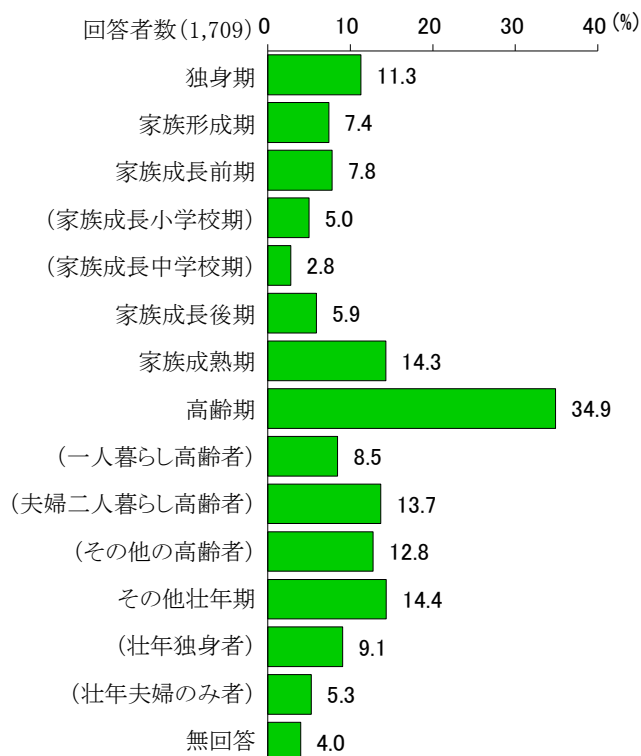




同居家族（複数回答）



ライフステージ



《 ライフステージの定義 》

ライフステージ別（7 カテゴリー）

- ・ 独身期 40歳未満の独身者
- ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
- ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - (家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - (家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
- ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
- ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
- ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
 - (一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - (夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - (その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
- ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - (壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
 - (壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦

足立区の面積 53.25km²
人口 689,106人
世帯 359,923世帯

*令和4年1月1日現在



足立区は、東京都23区の最北端に位置し、区域の総面積は23区域総面積の約一割にあたり大田区、世田谷区について第三位の広さです。東は葛飾区に、西は北区、埼玉県川口市に、南は葛飾区、墨田区、荒川区に、北は埼玉県川口市、草加市並びに八潮市にそれぞれ隣接しています。



足立区 政策経営部 広報室 区政情報課

〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1
TEL 03(3880)5111(代)

世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス<https://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区 政策経営部 広報室 区政情報課

この概要版は再生紙を使用しています。